

新潟経営大学中期計画 中間評価報告書

令和5年6月



新潟経営大学

＜シンボルマークの由来＞

新潟経営大学のロゴは、たまごをモチーフに描かれています。

「啐啄同時（そったくどうじ）」という禅の言葉によれば、雛が内側から殻を破ろうと声をあげると同時に、親鳥が外側から殻をつつかなければ、雛はたまごから出てくることができません。

このロゴには、4年間の大学生活の中で自ら殻を破り、自分の新たな可能性に出会ってほしいという学生への想いが込められています。そして、卒業後にそれぞれの目指すところへ大きく羽ばたいて行けるように、大切に学生を育てようという本学の志を掛け合わせ、すべての始まりであるたまごが割れた瞬間をシンボルとしました。

たまごの青いカラーは、あらゆる世界へと広がる蒼天を表しています。

— 目 次 —

I	計画の体系	1
II	評価期間	2
III	中間評価結果	3
1	全体目標の評価	3
2	カテゴリー別の総合評価	3
3	重点目標別個別事業の評価	4
	【カテゴリー1】教育力の強化	5
	【カテゴリー2】学生支援の強化	7
	【カテゴリー3】地域貢献・産学官連携の推進	8
	【カテゴリー4】高大連携	10
	【カテゴリー5】研究力の強化	10
	【カテゴリー6】入学者確保	11
	【カテゴリー7】広報戦略の強化	13
	【カテゴリー8】教職員のモチベーションの推進	14
	【カテゴリー9】財政基盤の強化	14
	【カテゴリー10】スポーツ資源の活用	15

I 計画の体系

<カテゴリー>

<重点目標>

1. 教育力の強化

- (1) インターンシップの充実
- (2) 語学力の強化
- (3) スポーツ科学の新たな分野の教育を充実させる。
- (4) 学生の海外留学の促進
- (5) 資格取得の強化
- (6) コンテストへの参加
- (7) 公務員センターの充実
- (8) DX人材、データサイエンス人材の輩出に向けた情報基盤の強化

2. 学生支援の強化

- (1) 就職指導の充実
- (2) 退学者を減らす。
- (3) 留年者を減らす。
- (4) 安全・安心なスポーツ環境を充実させる。
- (5) 施設の改善
- (6) 進学指導の充実

3. 地域貢献・産学官連携の推進

- (1) 地方自治体や地元産業界との関係を強化する。
- (2) 公開講座の充実
- (3) 社会人教育を推進する。
- (4) 地元からの意見を聴取する。
- (5) 地元企業への就職をサポート
- (6) 地域ボランティア活動の推進
- (7) 大学施設利用の推進
- (8) スポーツ資源を活かした地域振興活動を展開する。
- (9) 『地域活性化ジャーナル』の活用

4. 高大連携

- (1) 高校で授業をおこなう。
- (2) 高大連携を結ぶ。
- (3) 運動部活動の支援
- (4) 単位認定
- (5) 在校生へのサポート

- 5. 研究力の強化
 - (1) 外部資金の積極的獲得
 - (2) 研究活動を推進

- 6. 入学者確保
 - (1) 定員充足率を改善
 - (2) 女子志願者を増やす。
 - (3) 系列校との提携
 - (4) スポーツ強化を通じた入学者の確保
 - (5) 留学生数について検討する。

- 7. 広報戦略の強化
 - (1) 高校訪問の見直し
 - (2) 一人一人の学生の活躍の発信
 - (3) 大学のイメージの改善

- 8. 教職員のモチベーションの推進
 - (1) 仕事の負担の改善
 - (2) 仕事の資源(個人の作業レベル)の改善
 - (3) 仕事の資源(部署でのサポート)の改善
 - (4) 心身の健康をチェックする。
 - (5) 仕事の資源(教職員全体)の改善
 - (6) 人事評価制度の導入

- 9. 財政基盤の強化
 - (1) 施設使用料
 - (2) 資金の獲得
 - (3) 経費の見直し
 - (4) 奨学金の見直し

- 10. スポーツ資源の活用
 - (1) スポーツ教育による学生の質向上
 - (2) スポーツ科学分野の環境整備
 - (3) スポーツ環境の整備
 - (4) スポーツ資質への集中投資
 - (5) スポーツ施設マネジメント
 - (6) 大学のブランディング強化
 - (7) スポーツを活用した国際交流
 - (8) 大学のスポーツの強化・促進
 - (9) スポーツによる社会連携の促進

II 評価期間

計画期間の令和2年度から令和6年度までの5年間のうち、中間時点として、令和4年度までの取組を評価する。

Ⅲ 中間評価結果

1 全体目標の評価

新潟経営大学の質保証の前提として以下の目標を計画期間内に達成する。

計画目標		中間評価
1	募集定員充足率 100%達成	順調
2	収容定員充足率 100%達成	概ね順調
3	希望者就職決定率 100%達成	順調

募集定員充足率は100%以上を達成することができたことで「順調」と評価する。収容定員充足率は上昇傾向にあり、更なる上昇を目指すこととし、「概ね順調」と評価する。希望者就職決定率は、100%に近い数値に上昇しており、「順調」と評価する。

指標の推移	2021	2022	2023
募集定員充足率 100%	69.4%	74.1%	114.7%
収容定員充足率 100%	69.0%	70.7%	77.6%
希望者就職決定率 100%	93.8%	97.5%	98.1%

2 カテゴリー別の総合評価

別冊「新潟経営大学中期計画中間評価シート」に記載のとおり、重点目標、主要施策別に事業評価を実施し、各カテゴリー別に総合評価を行った。

<評価結果>

【カテゴリー1】教育力の強化

インターンシップ事業は順調であるものの、語学力の強化、情報基盤の整備等で遅れている傾向があり、「やや遅れている」と評価する。

【カテゴリー2】学生支援の強化

遅れている事業もあるが、就職指導の充実や施設の改善など、順調に事業を進めている傾向が多く、「概ね順調」と評価する。

【カテゴリー3】 地域貢献・産学官連携の推進

多くの施策を展開し、かつ順調に事業を進めている傾向が多いので、「順調」と評価する。

【カテゴリー4】 高大連携

高大連携は実施されているものの、事業が実施されていない主要施策も多いことから、「やや遅れている」と評価する。

【カテゴリー5】 研究力の強化

研究費確保で遅れている事業もあるが、順調に進めている事業もあることから、「概ね順調」と評価する。

【カテゴリー6】 入学者確保

入学者の確保に向けて、多くの事業で取り組みが実施できているため、「順調」と評価とする。

【カテゴリー7】 広報戦略の強化

遅れている事業はあるが、広報戦略として、ある程度の事業は取り組み実施できているため、「概ね順調」と評価とする。

【カテゴリー8】 教職員のモチベーションの推進

遅れている事業はあるが、業務プロセス改善や人事評価の導入など、ある程度の事業は取り組み実施できているため、「概ね順調」と評価とする。

【カテゴリー9】 財政基盤の強化

人件費の削減措置、補助金の獲得増、予算編成のマイナスシーリング等により、財務収支は改善傾向にあるが、使用料、寄附金、委託業者の見直しは進んでいないことから、「やや遅れている」と評価する。

【カテゴリー10】 スポーツ資源の活用

新たな強化指定部の創設やスポーツによる社会連携は進んでいるが、全体として進捗が遅れている事業が多いので「やや遅れている」と評価する。

3 重点目標別個別事業の評価

別紙「新潟経営大学中期計画」中間評価シート記載のとおり。

「新潟経営大学中期計画」 中間評価シート

【カテゴリー1】教育力の強化

・インターンシップは、就活に活かせる活動であるため、単位認定希望者を増やすとともに、低学年からの参加を強化する。
 ・制度としての検定料補助をより適切かつ効果的に運用することにより、学生の資格取得への支援を行う。
 ・検定試験への段階的な挑戦を行うことで、学生の学修意欲が継続されると共に、資格試験の合格状況を高校生への広報材料とすることができる。
 ・DXの進展、データサイエンスの普及など、デジタル化をめぐる社会の変化は著しく、学生に向け一般社会における一定レベルのICT活用技能の習熟機会を提供する。

遅れている事業もあるが、概ね事業を進めている傾向が多く、「概ね順調」と評価する。

(千円)

重点目標	主要施策	事業概要	所管	予算額	評価の考え方（設定指標）又は定性評価の方法	評価の計算式・事業の実績	評価結果
(1) インターンシップの充実	地域共育型インターンシップの実施	インターンシップの参加率を上げるためキャリアデザインの授業に組み入れた情報提供を強化する。	キャリア支援委員会	657	・令和2年～4年前期までコロナによってインターンシップを開催する企業が半減し学生の行動範囲も規制あり。令和5年度から分析を細かくし評価を再検討したい。延人数より実人数を増やす強化をする。コロナ明けの令和5年度から令和4年度どより2%UPを目指す	インターンシップ参加率 令和元年 在学生641/参加延人数130=20.3% 実人数10.9% 令和4年度 在学生585/参加延人数94=16.1% 実人数9.6%	順調
		令和4年度に引続き、インターンシップの正課授業として産官学地域連携センターと連携し充実を図る。	キャリア支援委員会・産官学地域連携センター	280	令和2年度0名→令和6年度40名	令和2年度：インターンシップ参加0名 令和3年度：インターンシップ参加0名 令和4年度：インターンシップ参加15名	順調
	インターンシップバスツアー等への参加	企業見学バスツアー、県主催フェア（インターンシップ）参加パス（新潟県委託事業申請予定）	キャリア支援委員会	234	【定性評価】企業見学バスツアーを年1回、インターンシップ報告会を年1回開催する。	いずれも開催したので、100%	順調
(2) 語学力の強化	語学関連検定試験受験料補助	学生の資格取得のための受験料を補助することにより、資格取得へのモチベーションを高める。	学務課	3,672	・語学系資格を受ける学生の資格取得の数が増えたかにより評価。認定単位資格の追加。	学生への資格取得推進の体制整備まだなされていないので今後委員会等で検討し、進めていく	遅れている
(3) スポーツ科学の新たな分野の教育を充実させる	スポーツコミュニケーション教育の充実等	スポーツコミュニケーション分野のカリキュラムを開講する。	スポーツマネジメント学科会議	(運営費)	スポーツコミュニケーション分野のカリキュラムについて新たに開講されたかを基に評価	カリキュラムについて新たに開講されていないので、今度教務委員会で議論し、検討を進めていく	遅れている
(4) 学生の海外留学の促進	留学生センター運営費	留学生への日本語学習支援や、生活情報の提供等、日本での生活全般におけるサポートを行う。	教務委員会	2,752	評価の方法 ・月別利用者数の統計 ・利用目的の統計 現時点では、センター職員の裁量で記録している場合があるが上記を統一して記録する事で定性評価を行う	本年度前期中に様式検討 後期より実績の蓄積を開始する	やや遅れている
	海外大学等との交流推進	海外協定校との交流を継続する。	国際交流委員会	121	評価の考え方： ・協定校との交流事業（意見交換会等） ・協定校への受け入れ、送り出し実績 ・協定校との協定更新（内容の質向上）	R4： 協定校との協定更新 協定校からの受け入れ：2名 協定校との交流事業：心理大学	概ね順調
(5) 資格取得の強化	検定試験受験料補助	学生の資格取得のための受験料を補助することにより、資格取得へのモチベーションを高める。	学務課	3,672	検定料補助がある資格を受ける学生の資格取得の数が増えたかにより評価	学生への資格取得推進の体制整備まだなされていないので今後委員会等で検討し、進めていく。過年度データの比較等資料等整理。	やや遅れている
	資格試験対策講座（日商簿記・警察官・消防官講座DVD使用料）	試験・資格に対する対策教材を使用することで、各試験・資格への合格者を増加する。	教務委員会	7,006	評価の方法 利用実績と資格など合格実績をもとに評価	簿記合格実績：1級8名 簿記講座実績：2級10名 公務員講座 年間11名程度が利用	順調
(6) コンテストへの参加	ゼミ活動の一環としてのビジネスコンテストへの参加促進	ビジネスコンテストへの参加による学修成果の発表、対外的なアピールならびに学修成果および達成感の醸成	教務委員会	(運営費)	評価の方法 参加実績を基に評価	2022年度時点では 1件：結果待ち状態	概ね順調
	学生表彰制度（コンテストで活躍した学生の表彰）	コンテスト等で活躍した学生を表彰することで対外的なアピールおよび在学生のモチベーション向上に資する。	学生委員会	164	表彰を受けた学生の情報を出身校や地域などに発信し、学生募集や大学の社会的評価の向上に資せしめるものとなったかを基に評価する。	本来の趣旨とは離れた「学生表彰の為の制度」にとどまっている。今後は大学広報と連携して取組むなど運用の改善が求められる。	遅れている
(7) 公務員センターの充実	資格試験対策講座（警察官・消防官講座DVD使用料）	試験・資格に対する対策教材を使用することで、各試験・資格への合格者を増加する。	教務委員会	2,319	評価の方法 利用実績と資格など合格実績をもとに評価	簿記合格実績：1級8名 簿記講座実績：2級10名 公務員講座 年間11名程度が利用	順調
	(重点) 教育環境の改善	2016年に導入した情報処理室端末管	情報メディア委	1,745	評価の考え方	2022年実施完了（100%）	順調

「新潟経営大学中期計画」中間評価シート

(8)DX人材、データサイエンス人材の輩出に向けた情報基盤の強化	(新)BYOD推進環境構築(無線LAN増強、第1情報処理室整備)	学生がノートPCを持ち込み、受講できるようにするために、電源アダプタ、USBハブ等を整備する。	情報メディア委員会	R3補正対応	BYODの運用が学生に対して確立される運用になった事を基に評価する。	まだ、BYODの環境について整備中のため、引き続き委員会等で議論して進めていく。	遅れている
	(新)CALL教室の環境整備(アクティブラーニング教室への改称)	「少人数教育」やZoom、Google Classroomを活用した「DX型」授業をアピールできる施設とする。	情報メディア委員会	R5以降	開設構想を令和4年度内に検討する。	現時点(令和4年2月)で検討されていない。0%	遅れている

「新潟経営大学中期計画」 中間評価シート

【カテゴリー2】 学生支援の強化

- ・就職率100%を目標とするため3つの主たる【授業】【事業】【セミナー：相談】の連携を強化する。
- ・学生の健康相談・安心して居られる環境を整備し、出席への足がかりの一つとしての役割を担う。
- ・在学生への教育効果を客観的指標に測定するためのテストや学生の声を聴く場としてのポータルサイトを運用する。
- ・安全・安心なスポーツ環境に向けて、教員のスポーツ指導に必要な関係団体の資格取得・更新を促進する。
- ・校舎内施設設備については、開学以来の経年劣化が著しい設備もあり、施設設備更新計画に基づき計画的に更新していく。
- ・キャリア支援室のリニューアルに向けた調査を開始する。

カテゴリーの
遅れている事業もあるが、概ね事業を進めている傾向が多く、「概ね順調」と評価する。

(千円)

重点目標	主要施策	事業概要	所管	予算額	評価の考え方（設定指標）又は定性評価の方法	評価の計算式・事業の実績	評価結果
(1) 就職指導の充実	経営トップセミナー等	視野を広げるだけでなく学生の質問力、プレゼン力向上も目標とし就職に役立つ事も学生にPRする。	キャリア支援委員会	224	学生に様々な業種の企業の周知をする事で業界探究となる。経営者の話を聞き経営学の理解を深める。グループ発表ではプレゼン能力をつける。	計画通り実行できた。	順調
	県内企業研究会、合同企業説明会の開催	学内企業研究会の回数を増やし合同企業説明会はWEB開催とし、スキルアップも兼ねて取り入れる。	キャリア支援委員会	381	企業研究の開催数を増やしたが参加率が下がったため再検討する。	令和4年度は計画通りできた。	概ね順調
(2) 退学者を減らす。	7セメントテスト (GPS-Academic)	在学生への教育効果を客観的指標に測定するため実施する。教育資料としての活用方法を検討する。	教務委員会	954	結果についての共有方法を検討する	ポータルでの共有方法について各学科からの合意を得た	概ね順調
	学生ポータル運用	学生の声を聴く場としてのポータルサイトを運用して、関係者が連携してバックアップできる体制を構築する。	学生委員会	2,438	学部学科間、また個々の教員によって学生情報の管理と活用にばらつきが顕著である。また、保護者に対する認知、活用が未だ十分で無いところが認められる。	修学指導だけでなく、キャリアサポートや生活指導を含めた管理と活用について学生委員会で検討し、改善を図る。	遅れている
	学生の健康診断 等	学生の健康状態を把握するとともに、健康相談、休息できる場を提供する。	健康管理増進室	1,924	休養スペースの拡大。入室しやすい環境整備。学務課・学生相談室や、キャリア支援室等他部署と必要時情報共有。	学内にある未使用ベッドを確保し、最大3名まで休養可	概ね順調
(3) 留年者を減らす。	(再掲) 7セメントテスト (GPS-Academic)	在学生への教育効果を客観的指標に測定するため実施する。教育資料としての活用方法を検討する。	教務委員会	954	結果についての共有方法を検討する	ポータルでの共有方法について各学科からの合意を得た	概ね順調
(4) 安全・安心なスポーツ環境を充実させる	スポーツ指導関係経費 (NSCA, UNIVAS, JSPO)	スポーツ指導に必要な関係団体の資格取得・更新のために要する経費を計上する。	教務委員会	197	本学での該当資格の受験（取得）状況を基に評価する。	JSPO（スポーツリーダー）：6名程度 NSCA（トレ検）：40名程度 NSCA（CSCS）：1名程度（取得：0）	概ね順調
(5) 施設の改善	(重点) (新) 教育環境の改善 (大講義室空調設備更新)	経年劣化が著しく、故障による教育環境に重大な影響を与えることから、最新設備に更新する。	総務課	8,250	ボイラー老朽化に伴い、ボイラーから切り離して電気式運転への切り替えを行う。	令和5年3月入替完了	順調
	(再掲) 情報処理室サーバー	2016年に導入した情報処理室端末管	情報メディア委	1,745	評価の考え方	2022年実施完了 (100%)	順調
	(再掲) BYOD推進環境構築 (無線LAN増強、第1情報処理室整備)	学生がノートPCを持ち込み、受講できるようにするために、電源アダプタ、USBハブ等を整備する。	情報メディア委員会	R3補正対応			
	(新) キャリア支援室リニューアル調査 (他大学施設見学)	学生が「キャリア支援室」を気軽に利用できる環境改善について提案する。	キャリア支援委員会	296	8月に視察を開催。リニューアルに向けた協議を進める。	視察に行き教職員の意思確認を纏める事ができた。	概ね順調
(6) 進学指導の充実	3年次早期卒業制度	早期卒業による高度な資格の早期取得および大学院進学を推奨することで教育水準のさらなる向上を図る。	学務課	(運営費)	推奨し、どのくらい効果があったかを基に評価する。	早期卒業について、推奨できる体制が整っていないが、簿記学習センター、キャリア支援課等関係部署との連携を構築検討し、進めていく。	遅れている

「新潟経営大学中期計画」 中間評価シート

【カテゴリー3】 地域貢献・産官学連携の推進

・地域貢献を建学の理念に掲げる大学として、地方の大学に求められる地域貢献の構成要素を一つ一つ着実に実施していくことで、地域から評価され、求められる大学となることを目標に事業に取り組んでいく。
 ・地域の将来像や具体的な連携・交流等の方策について議論する地域連携プラットフォーム「新潟県央地域・未来人材育成コンソーシアム」で、構成メンバーである地元自治体や地元産業界との連携を強化する。
 ・公開講座は、研究成果の利用と学習の機会を提供し、地域の経済・文化活動を活性化するとともに、本学の地域研究拠点としての役割を明確化する。来場型とオンライン型の2種類の受講環境を整える。
 ・新規講座として、夏休みの自由研究や運動（体操等）を通して地域の子供たちに主体的に取り組む、学ぶ楽しさを提供し、地域経済（活性化）に貢献できる人材を輩出することを目的とし開講する。
 ・地元からの意見を聴取する取り組みとしては、地域の声を聴く会を開催するほか、本学の教育課程編成について、地元自治体の意見を聞く取り組みを進める。

カテゴリー3の事業を進めている傾向が多いので、「順調」と評価する。

(千円)

重点目標	主要施策	事業概要	所管	予算額	評価の考え方（設定指標）又は定性評価の方法	評価の計算式・事業の実績	評価結果
(1) 地方自治体や地元産業界との関係を強化する。	(新) 地域DX研究、DX人材育成研究推進事業	地域活性化研究所の活動が地域のDX研究、DX人材育成研究に繋がっていることを、大学ステークホルダーに示す。	地域活性化研究所	36	・大学HPIにDX人材育成研究のページを作成し公表する	R4年度公表	順調
	包括連携協定先との連携強化	地元自治体、地元産業界との関係を強化し、教育研究の場を創出するとともに、地域貢献活動の充実を図る。	産官学地域連携センター	31	・協定先との連携協議会、連携会議を開催（年4回） ・包括連携協定先を増加（令和2年度14→令和6年度16）	・協定先との連携協議会、連携会議を開催（R3、R4 4回） ・包括連携協定先を増加（令和2年度14→令和4年度16）	概ね順調
	加茂田上こども若者会議の開催	新潟経営大学がハブとなり、加茂田上地域の中学校が取組んだ地域活動を共有する会議を開催する。	地域活性化研究所	28	・加茂田上こども若者会議の開催	・R4. 11. 12第1回加茂田上こども若者会議の開催	順調
	大学と地域の協働による観光活性化モデル事業	地域活性化をテーマとし、地域資源を基に学生の考えを活用した事業の実施に取り組む。	産官学地域連携センター	454	・毎年モデル事業協議会総会を開催する。 ・毎年モデル事業協議会事業を実施する。	・R2, R3, R4モデル事業協議会総会を開催 ・R2, R3, R4モデル事業を実施	順調
	糸魚川観光プロジェクト	地方自治体や地元産業界との関係を強化し、高大連携を深める。海洋高校の出入り授業や現地調査を実施する。	観光経営学部	488	・糸魚川観光プロジェクトを実施する。	・R2、R3まで実施。R4より中断	
(2) 公開講座の充実	新潟経営大学公開講座の実施	地域住民に生涯学習の機会を提供し、経済・文化活動の活性化と本学の地域研究拠点としての役割を明確化する。	地域活性化研究所	(運営費)	・公開講座開催数を増加させる（令和2年度 20講座→令和6年度28講座） ・公開講座受講者数を増加させる（令和2年度121名）	・R2 20回開催、R3 25回開催、R4 20回開催 ・R2 121名、R3 192名、R4 202名 ・満足度 85%以上	順調
	寄付講座の受け入れ	地域自治体、産業界、団体等からの寄付講座開設の問合せ相談に対応し、学内における受け入れ調整を行う。	産官学地域連携センター	(実費収入)	・寄付講座開催数を増加させる（令和2年度 0講座→令和6年度 5講座）	・R2 0回開催、R3 1回開催、R4 1回開催	やや遅れている
(3) 社会人教育を推進する。	(再掲) 地域DX研究、DX人材育成研究推進事業	地域活性化研究所の活動が地域のDX研究、DX人材育成研究に繋がっていることを、大学ステークホルダーに示す。	地域活性化研究所	36	・大学HPIにDX人材育成研究のページを作成し公表する	R4年度公表	順調
	サテライトキャンパスの実施	地域ニーズを踏まえ、後継者育成セミナー、価値共創ラボラトリ等の社会人セミナーを推進していく。	産官学地域連携センター	1,106	・社会人向け講座の開催数を増加させる（令和2年度3講座→令和6年度6講座） ・社会人向け講座の参加人数を増加させる（令和2年度 0人→令和6年度30人）	・R2 3講座開催、R3 4講座開催、R4 3講座開催 ・R2 21名参加、R3 10名参加、R4 12名参加 ・満足度 85%以上(100%)	やや遅れている
(4) 地元からの意見を聴取する。	本学の教育理念や課程編成等について、地元自治体の意見を聞く	大学の教育・研究活動に対し、包括連携協定を結ぶ地元自治体がどのような印象を得ているのかを聴き、今後の事業に結びつける。	学務課		・教育理念や教育課程について適切な方法で意見を聴取する機会を増やす。（令和2年度 0件→令和6年度5件）	・R3 1件、R4 2件	概ね順調
(5) 地元企業への就職をサポート	(再掲) 県内企業研究会、合同企業説明会の開催	学内企業研究会の回数を増やし合同企業説明会はWEB開催とし、スキルアップも兼ねて取り入れる。	キャリア支援委員会	381	WE B学内合同企業研究会を82社で開催。	予定通り開催	概ね順調
(6) 地域ボランティア活動の推進	ボランティアサークルの活動支援	ボランティア活動を通じ、地域貢献・人的交流を図り、学生の経験、資質を向上させる。	学務課	(運営費)	ボランティア活動を通じ、学生においてはどのくらい資質・向上があったか、対象地域等においてはどのくらい貢献できているかを基に評価する。	学生の経験や資質が向上したかどうかを測る指標が無いこと、貢献を指標化することが困難であることから、今後課内で検討し進めていく。	遅れている
(7) 大学施設利用の推進	(新) 経大フィールドの外部団体貸出の促進	地域貢献の一つとして、地域スポーツの水準向上に寄与するため、希望する団体に有償で貸出を行う。	スポーツコーチ室	(実費収入)	目標到達の為の環境整備を行う	予算の関係で一部未対応の部分がある	遅れている
	各種試験会場としての講義室貸出の促進	休校日に各種試験、各種セミナーの会場として、外部団体等に貸し出し、施設の有効活用を図る。	総務課	(実費収入)	貸出についてはアウトソーシングを実施したが、促進までには至っていない。	貸出についてはアウトソーシングを実施したが、促進までには至っていない。	遅れている

「新潟経営大学中期計画」中間評価シート

(8) スポーツ資源を活かした地域振興活動を展開する。	三条市体育系活動サポート事業受託	三条市立中学校部活動の練習メニュー作成、習熟度の確認を提供し、部活動の一層の活性化を図る。	総務課	(実費収入)	令和4年度も三条市からの依頼に対応	例年通り実施した。	順調
	公開講座(チャレンジ大学講座)の実施	アクロバット講座、体力づくり運動広場、体育のお悩み相談教室等の講座を実施する。	地域活性化研究所	82	有料講座を視野に、新たな公開講座を検討、実施する。	・R4 チャレンジ大学講座(4講座)を新規に実施した。	順調
(9) 『地域活性化ジャーナル』の活用	地域活性化ジャーナル第28号発刊	研究成果を公開することによる地域貢献として、産学官連携による成果物の一つとして位置づける。	地域活性化研究所	77	毎年、地域活性化ジャーナルを発刊する	・R2、R3、R4それぞれ発刊した。	順調

「新潟経営大学中期計画」 中間評価シート

【カテゴリー4】 高大連携

・地域の高等教育機関としての役割及び責務を全うし、地域の中等教育機関に本学の教育・研究・人財を幅広く認知してもらう。
 高大連携協定締結：新潟県立新潟東高校
 探究学習支援実施校：小千谷西高校他

カテゴリーの
 総合評価
 やや遅れている事業もあるが、概ね進捗されているため、「概ね順調」と評価する。

(千円)

重点目標	主要施策	事業概要	所管	予算額	評価の考え方（設定指標）又は定性評価の方法	評価の計算式・事業の実績	評価結果
(1) 高校で授業を行う。	探求学習	高等学校探求学習への対応を図る。	産官学地域連携センター	(運営費)	・探究学習支援高校数（令和2年3校→令和6年 校）	・R2 新潟東、村上、海洋、他 ・R3 小千谷西、村上、海洋、他 ・R4 小千谷西	やや遅れている
	(再掲) 糸魚川観光プロジェクト	地方自治体や地元産業界との関係を強化し、高大連携を深める。海洋高校の出前授業や現地調査を実施する。	観光経営学部	488	・糸魚川観光プロジェクトを実施する。	・R2、R3まで実施。R4より中断	
(2) 高大連携を結ぶ。	高大連携の推進	主に地域探究をテーマにしたアクティブラーニングに対し、教員または、講義の一環として学生を派遣す	産官学地域連携センター	67	・中学校の上級学校訪問の受入れ（令和2年 校→令和6年10校）	・R3 6校、R4 10校	順調
(3) 運動部活動の支援	運動部活動の支援	技術・戦術クリニック・トレーニング指導及び栄養指導を行う。	スポーツ強化指定部委員会	(運営費)	技術・戦術クリニックを実施	R3年度高校生女子サッカー選手に対するクリニックを実施	概ね順調
(4) 単位認定	単位認定制度を実施する。						
(5) 在校生へのサポート	本学学生の母校への訪問をサポートする。						

【カテゴリー5】 研究力の強化

・外部資金である科学研究費の採択数を増やし、研究力の強化を図る。
 ・「紀要」は、教育機関が定期的に発行する学術雑誌である。平成7年（1995年）の創刊以来、本学の教員の研究発表の場となっている。

カテゴリーの
 総合評価
 遅れている事業もあるが、概ね事業を進めている傾向が多く、「概ね順調」と評価する。

(千円)

重点目標	主要施策	事業概要	所管	予算額	評価の考え方（設定指標）又は定性評価の方法	評価の計算式・事業の実績	評価結果
(1) 外部資金の積極的獲得	科学研究費	科学研究費の事業内容や応募に関する説明会を開催し、一層の外部資金の獲得を図る。	総務課	1,100	例年通り実施、積極的な外部資金獲得にまでは至っていない。	例年通り実施、積極的な外部資金獲得にまでは至っていない。	やや遅れている
(2) 研究活動を推進	教員研究費	教員個々人の研究費を支給し、調査研究活動を行い、学長に研究経過報告書を提出する。	会計課	5,110	研究経費に対し、研究計画調書を基に、研究計画報告書を提出する事を基に評価する。	研究経費の支出の精算、管理を行っているが、令和4年度は学部長から紙媒体での提出がなく、研究経過報告書の提出ができなかった（ペーパーレス化）	遅れている
	図書館の運営	図書館システムを運用するとともに、研究図書、出版物を購入し、研究活動を支援する。	図書委員会	9,809	研究図書や出版物について購入を推進し、研究活動を支援した事を基に評価する。	図書委員会の予算範囲内で、研究図書や出版物について購入を推進し、研究活動を支援できた	順調
	新潟経営大学紀要の発行	紀要規程」により、研究論文等を掲載した「新潟経営大学紀要第」を毎年度発行する。	研究倫理委員会	202	紀要について取りまとめ、発行できた事を基に評価する。	紀要について取りまとめ、発行できた。	順調
	共同研究、依頼研究の受付	地方自治体、産業界等からの共同研究、依頼研究の相談に対応し、学内に置ける受入れ調整を図る。	産官学地域連携センター	221	・事業数（毎年3事業以上）	・R2 相談2件、実施0件、モデル事業1件 ・R3 相談4件、実施2件、モデル事業2件 ・R4 相談2件、実施2件、モデル事業2件	順調

「新潟経営大学中期計画」 中間評価シート

【カテゴリー6】 入学者確保

・ただ認知拡大を目的にするのではなく、定員充足率向上に向けた資料請求の質の向上を目的に広報活動を行い、出願者および入学者確保に繋げる。その為に、資料請求者の特性を分析し、ターゲットにあった情報発信を行う。
 ・系列校との連携を活かして、本学の学びを伝える機会を増やすと共に、授業料免除制度を用いて入学しやすい環境を整える。
 ・スポーツ強化を通じて、新たな受け皿づくりやスカウト活動の強化を行い受験生確保に向けた間口の拡大を目的に行う。

カテゴリー6の
 ある程度の事業は取り組み実施できているため、「順調」での評価とする。

(千円)

重点目標	主要施策	事業概要	所管	予算額	評価の考え方（設定指標）又は定性評価の方法	評価の計算式・事業の実績	評価結果
(1) 定員充足率を改善	資格特待生制度	学習能力の高い学生確保および、教育効果を高めて有意な人材を育成を行う。	入試広報委員会	2,480	対象資格・検定を取得した学生を確保する。	R4：3名	概ね順調
	大学案内作成等	高校生・保護者・教員および地域住民の方々に対して大学を認知してもらおうと共に、大学のイメージ改善を行う。	入試広報委員会	2,680	大学の学びだけでなく学生の情報を掲載し、キャンパスライフをイメージしやすくする。	R4：学生出演14名	概ね順調
	募集用務	資料請求者に対する、大学案内発送および、システムを用いた名簿の管理・分析を行う。	入試広報委員会	1,963	資料請求からオープンキャンパス参加・出願・入学までの接触履歴を分析をお行い、入学者確保の参考とする。	実施した。	順調
	オープンキャンパス	大学に直接足を運んでいただき、大学の学びや施設設備、校風などを知らせてもらい、入学意識の促進を図る。	入試広報委員会	2,655	体験講義だけでなく学生と触れ合い大学を知っていただき、出願へとつなげる。オープンキャンパスから出願までの歩留まり率の向上。35%	R4：33.3%	やや遅れている
	入試広報媒体の活用	独自媒体だけでなく、進学支援業者の媒体を活用することにより、多くの高校生から本学の認知度を向上させる。	入試広報委員会	25,385	資料請求数年間6,500件以上	R4：6565件	順調
(2) 女子志願者を増やす。	(重点) (新) 新たな受け皿づくりのための調査	女子サッカー部の創設など、今後の入学者確保に向けて、本学の強みを活かした新たな受け皿づくりを検討する。	スポーツ強化指定部委員会	1,000	新たな強化指定部の創部	R5年4月女子サッカー一部員入部、活動開始 R6年4月女子駅伝部創部 (R5年：スカウト活動)	概ね順調
	各種広報媒体の活用	媒体に使用する写真や学生の活躍について、女子学生を優先的に起用し、キャンパスライフをイメージさせる。	入試広報委員会	1,367	女子学生を多く掲載し、大学のイメージを変化させる事に基に評価	女子学生の起用を10名以上実施できた	順調
(3) 系列校との提携	系列校授業料半額免除制度	本学園が設置する学校（系列校）からの入学者に対し修学及び学業の向上に資するため減免を行う。	学生委員会	10,385	減免に対し、適切な事務処理や処置を行い、学業支援できた事を基に評価する。	減免に対し、適切な事務処理や処置を行い、学業支援できた。	順調
(4) スポーツ強化を通じた入学者の確保	スポーツ強化指定部関連経費	スポーツの強化を図るとともに、本学のブランディング強化を行い、認知度向上に繋げる。	スポーツ強化指定部委員会	7,336	強化指定部の全国大会出場	R4年：男子バスケットボール部インカレ出場	やや遅れている
	スポーツ推薦授業料等減免	全国の優秀な選手獲得し、本学から全国へと活躍できる選手を育成する。	学生委員会	58,250	スポーツ減免該当の学生にスポーツ活動に練習し活躍できるように育成できるかを基に評価する。	スポーツ減免該当の学生にスポーツ活動に練習し活躍できるように育成できるかを支援し、支援に努めている。	順調
	スポーツ強化指定部スカウト経費	大学全体の定員充足率向上への貢献および、全国で優秀な選手を発掘する。	スポーツ強化指定部委員会	2,904	各部の獲得目標人数に応じてスカウト活動を行う	R5年：強化指定部員78名入部	概ね順調
(5) 留学生数について検討	(再掲) 留学生センター運営費	留学生への日本語学習支援や、生活情報の提供等、日本での生活全般におけるサポートを行う。	教務委員会	2,752	評価の方法 月別利用者数の統計 利用目的の統計 現時点では、センター職員の裁量で記録している場合があるが 上記を統一して記録する事で定性評価を行う。	本年度前期中に様式検討後より実績の蓄積を開始する	概ね順調
	協定校・協定機関との連携	大学案内や学生募集要項などを発送する。	入試広報委員会	350	資料を発送する。		やや遅れている

「新潟経営大学中期計画」中間評価シート

9. 9.	(再掲) 海外大学等との交流推進	海外協定校との交流を継続する。	国際交流委員会	121	評価の考え方： ・協定校との交流事業（意見交換会等） ・協定校への受け入れ、送り出し実績 ・協定校との協定更新（内容の質向上）	R4：協定校との協定更新協定校からの受け入れ：2名協	概ね順調
	外国人留学生授業料等減免	留学生生活の安定と学業の向上に資するため、条件に基づき規定された減免率により減免を行う。	学生委員会	5,368	減免制度について留学生の経済状況を理解し、減免制度について措置を実施している事を基に評価する。	減免制度について留学生の減免制度について措置を都度実施している。	順調

「新潟経営大学中期計画」 中間評価シート

【カテゴリー7】 広報戦略の強化

・高校生、保護者、高校教員など、それぞれの目線に合わせた情報を発信の強化を行う。（キャンパスライフや大学と地域または企業と協働して学ぶ取り組みなど）
 ・在学生一人一人の情報発信を強化することにより、様々な本学の学生像・キャンパスライフを高校生にイメージさせ、大学のイメージ改善に繋げていく。
 ・新入生が持っている、学力だけでは測れない力をGPS-Academicを用いて測定し、昨年度の入学者と比較を行い、本学のアドミッションポリシーにあった学生確保に向けて、入学者選抜の見直しを図っていく。

カ テ ゴ リ ー の 評 価	遅れている事業はあるが、ある程度の事業は取り組み実施できているため、「概ね順調」での評価とする。
--------------------------------------	--

(千円)

重点目標	主要施策	事業概要	所管	予算額	評価の考え方（設定指標）又は定性評価の方法	評価の計算式・事業の実績	評価結果
(1) 高校訪問の見直し	高校教員向け広報	高校訪問だけでなく、大学と高校を繋ぐポータルサイトを通じて、常に大学の情報を発信する。	入試広報委員会	1,250	HPやSNS等を通じて常日頃、大学の情報を発信している事を基に評価する。	HPやSNS等を通じて常日頃、大学の情報を発信している。	順調
	高校訪問担当特任教授の配置	本学の学生情報や教育の情報の発信力を強化するため、配置する。	入試広報委員会	(運営費)	高校訪問担当特任教授を配置し、定期的に発信できているかを基に評価する。	高校訪問を計画的に実施した。	やや遅れている
(2) 一人ひとりの学生の活躍発信	一般広報	学生のキャンパスライフ等をHPや進学支援業者の媒体を使って、発信を行いキャンパスライフをイメージしてもらう。	入試広報委員会	1,367	キャンパスライフをイメージできるコンテンツを作成する。	新規ページの立ち上げを実施	順調
	(再掲) 大学案内作成等	各学科・部活または各種学習センターで活躍している学生を、ピックアップし各ページに掲載をする。	入試広報委員会	2,680	学生を各ページに記載する。	教職課程センター・簿記学習センター・各部活に学生を掲載した。	順調
(3) 大学のイメージ改善	(再掲) 一般広報	進学支援業者の媒体をはじめとする、大学の最新の情報を常に発信する。	入試広報委員会	1,367	最新の情報を更新する。	常に更新できる媒体については、更新を実施した。	順調
	アセスメントテスト (GPS-Academic) 入学生分	新入生の持っている力を測定し、昨年度と比較を行い、入学者選抜の見直しを行う。	入試広報委員会	505	入学者選抜の見直しを行う。	未実施	遅れている
	(再掲) 新潟経営大学公開講座の実施	地域住民に生涯学習の機会を提供し、経済・文化活動の活性化と本学の地域研究拠点としての役割を明確化する。	地域活性化研究所	(運営費)	・公開講座開催数を増加させる（令和2年度 20講座→令和6年度28講座） ・公開講座受講者数を増加させる（令和2年度121名→令和6年度200名） ・公開講座受講者の満足度を向上させる（各年度満足度85%以上）	・R2 20回開催、R3 25回開催、R4 20回開催 ・R2 121名、R3 192名、R4 202名 ・満足度 85%以上	順調

「新潟経営大学中期計画」 中間評価シート

【カテゴリー8】 教職員のモチベーションの推進

【業務プロセスの改善】
 ・学生納付金・入学金・旅費・消耗品等の会計業務プロセス改善を検討することとし、無駄な入出力業務の省力化等の改善案を作成する。ペーパーレス化と経費節減を図るため、各種届出等の電子決裁導入を検討する。
 ・申請書受付等の定型的業務の効率化を図るため、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）導入を検討する。
 【教職員の資質向上】
 ・教職員への能力開発として（FD・SD）研修を実施する。
 ・専任職員の人事評価については、管理職への拡大、被評価者へのフィードバックを検討する。

カテゴリー8の遅れている事業はあるが、ある程度の事業は取り組み実施できているため、「概ね順調」での評価とする。

(千円)

重点目標	主要施策	事業概要	所管	予算額	評価の考え方（設定指標）又は定性評価の方法	評価の計算式・事業の実績	評価結果
(1) 仕事の負担の改善	業務量の把握・平準化	教職員の休暇等の取得状況の把握と計画的取得の奨励、超過勤務の削減	総務課		休暇の計画的取得と超過勤務の削減	業務の平準化には至らず。	遅れている
(2) 仕事の資源（個人レベル）の改善	教職員の能力開発	業務改善に向けた教職員の能力開発研修（SD）の実施	総務課、企画財務課		・教職員全体に対しての能力開発研修の推進・実施	一部で実行されているが、教職員電全体としてはまだまだ実施されていない	遅れている
(3) 仕事の資源（部署でのサポート）の改善	業務プロセスの改善	会計業務プロセス改善の検討、ペーパーレス化と経費節減を図るため、各種届出等の電子決裁の導入	企画財務課		・会計システムのペーパーレス化 ・予算執行何や出張願等各種届出の様式のペーパーレス化	令和4年度のペーパーレス化について予算化されていなかったが、現システムのオプションを附属する提案をして、学園全体で月額5,000円での採択で令和4年12月から運用を開始している。	概ね順調
(4) 心身の健康をチェックする。	健康診断・ストレスチェック	教職員の健康診断やストレスチェックを実施する。	学務課	672	健康診断受診率95%以上 <input type="checkbox"/> ストレスチェック調査書提出	健康診断受診率95.7% <input type="checkbox"/> ストレスチェック調査書提出率91.5% <input type="checkbox"/> マインド	概ね順調
(5) 仕事の資源（教職員全体）の改善	教職員の能力開発、勤務形態の多様化	（FD・SD）研修を実施する。時差出勤制度、在宅勤務制度等、多様な勤務形態の導入を検討する。	総務課、企画財務課		・教職員全体に対してのFD・SDの推進・実施	令和4年度は2回のSD・FDの実施を行った	概ね順調
(6) 人事評価の導入	評価規程の見直し	管理職への拡大、被評価者へのフィードバックの実施を検討するなど、職務業績評価規程を見直す。	総務課		規程の見直し	法人にて実施済み。	順調

【カテゴリー9】 財政基盤の強化

【PDCAサイクルの確立】
 ・令和6年度を目途に収支バランス（赤字ゼロ）を達成するため、新たな収入確保を図るとともに、収支構造の見直しを推進し、財政基盤の強化を図る。
 ・そのために、収入状況に応じた予算編成シーリングの実施を、当初予算、補正予算いずれにおいても行うこととする。
 ・実施事業については、その実績と効果を検証し、必要に応じて見直しを行う。

カテゴリー9の人件費の削減措置、補助金の獲得増、予算編成のマイナスシーリング等により、財務収支は改善傾向にあるが

(千円)

重点目標	主要施策	事業概要	所管	予算額	評価の考え方（設定指標）又は定性評価の方法	評価の計算式・事業の実績	評価結果
(1) 施設使用料	既存使用料の見直し、新	各種試験会場としての講義室貸出	総務課、企画財		施設使用料において、施設借用アウトソーシング業者と	施設使用料において、施設借用アウトソーシング業者と	遅れている
(2) 資金の獲得	補助金、寄付金の獲得	私立大学等経常費補助金の減額要因の解消、県・市町村からの補助金確保、寄付金の確保	総務課		減額要因の解消、寄附金の確保	教育の質での減額要因を解消したが、寄附金の確保については法人との検討も必要となる。	やや遅れている
(3) 経費の見直し	予算編成シーリング、委託業者の見直し	予算編成シーリングの実施、委託業者の見直しを必ず行う。	企画財務課		予算編成時において都度シーリングを実施し、予算削減に努める。 大学で契約している業者について全体的に見直しを行う。	予算編成については編成時にシーリングを実施している。 委託業者の見直しはされていない。 関係する所管の部署の協力や密な情報交換はないと見直しする事ができない	やや遅れている
(4) 奨学金の見直し	各種奨学金の見直し	実績と効果を検証し、必要に応じて見直しを行う。	学務課		奨学金の見直しについて、取り組んでいる事を基に評価する。	令和6年度以降入学生からの「給費奨学金」廃止や令和5年度からの「報奨奨学金」の見直し等を行った。	概ね順調

「新潟経営大学中期計画」 中間評価シート

【カテゴリー10】 スポーツ資源の活用

【スポーツに関する重点プロジェクト】

・強化指定部は【教育】【強化】【地域貢献】の3つの理念を掲げ活動し、令和4年度の入学生を含め、強化指定部所属学生は181名になる。スポーツを通じ本学の認知度を高め、定員充足率の改善に貢献するなど、単に「スポーツ教育」の枠を超える事業である。学生の帰属意識や愛校心を高め、更に学園全体の一体感を醸成することを目指す。
 ・スポーツによる社会連携の促進を図る。
 ・女子サッカー部の創設など、今後の入学者確保に向けて、本学の強みを活かした新たな受け皿づくりを検討する。

カ テ ゴ リ ー の 評 価	事業全体として進捗が遅れている事業が多いので「やや遅れている」と評価する。
--------------------------------------	---------------------------------------

(千円)

重点目標	主要施策	事業概要	所管	予算額	評価の考え方（設定指標）又は定性評価の方法	評価の計算式・事業の実績	評価結果
(1) スポーツ教育による学生の質向上	スポーツ強化指定部全国大会出場補助	スポーツを通じ、学生の人間形成を図るとともに、強化指定部が各地で活動することで本学ブランドを強化する。	スポーツ強化指定部委員会	2,700	強化指定部入学生の増加（各部の入部目標人数の獲得） 強化指定部の全国大会出場	予算の関係で一部未対応の部分がある	やや遅れている
(2) スポーツ科学分野の環境整備	スポーツ科学分野における教育・研究環境の充実						
(3) スポーツ環境の整備	ストレンクス&コンディショニング	学修環境を整え、学修成果の向上およびケガ等の予防に繋げる。	教務委員会	263	修繕が必要であったり、一般的な利用年数を超えた機材の交換を行う事で環境を整える	予算の関係で一部未対応の部分がある	やや遅れている
	アスレチックトレーニング	学修環境を整え、学修成果の向上およびケガ等の予防に繋げる。	教務委員会	145	修繕が必要であったり、一般的な利用年数を超えた機材の交換を行う事で環境を整える	予算の関係で一部未対応の部分がある	やや遅れている
	スポーツ栄養学	学修環境を整え、目標への到達を達成する。	教務委員会	91	目標到達の為の環境整備を行う	概ね計画通りに実施出来ているが困りやすい環境とすべ	概ね順調
(4) スポーツ資質への集中投資	グラウンド人工芝張替え	練習環境を整え、選手の満足度だけでなく練習成果の向上およびケガ等の予防に繋げる。	スポーツ強化指定部委員会	8,230	すでに修繕が必要な箇所があり、一般的な利用年数を超えた機材の交換を行う事で環境を整える	予算の関係で一部未対応の部分がある	遅れている
	(新)グラウンドトイレ整備検討	スポーツ施設の充実度を向上させることにより、選手および大会関係者等の満足度向上に繋げる。	スポーツ強化指定部委員会	R5以降	目標到達の為の環境整備を行う	予算の関係で一部未対応の部分がある	遅れている
(5) スポーツ施設マネジメント	(再掲) (新) 経大フィールドの外部団体貸出の促進	地域貢献の一つとして、地域スポーツの水準向上に寄与するため、希望する団体に有償で貸出を行う。	スポーツコーチ室	(実費収入)	環境整備。システムの作成、導入	予算の関係で一部未対応の部分がある	遅れている
(6) 大学のブランディング強化	(再掲) スポーツ強化指定部全国大会出場補助	スポーツを通じ、学生の人間形成を図るとともに、強化指定部が各地で活動することで本学ブランドを強化する。	スポーツ強化指定部委員会	2,700	目標到達の為の環境整備を行う	予算の関係で一部未対応の部分がある	やや遅れている
(7) スポーツを利用した国際交流	強化指定部による交流試合、学生の海外研修						
(8) 大学のスポーツの強化・促進	(再掲) (重点) 新たな受け皿づくりのための調査	女子サッカー部の創設など、今後の入学者確保に向けて、本学の強みを活かした新たな受け皿づくりを検討	スポーツ強化指定部委員会	1,000	目標到達の為の環境整備を行う	今後、女子クロスカントリー部、チアリーディング部の創部を予定、指導者、選手の動向などについて調査を行う	概ね順調
(9) スポーツによる社会連携の促進	(再掲) 三条市体育系活動サポート事業受託	三条市立中学校部活動の練習メニュー作成、習熟度の確認を提供し、部活動の一層の活性化を図る。	総務課	(実費収入)	三条市体育系活動サポート事業受託において、活性化を図れたかを基に評価を行う。	コロナ禍において、活動依頼がなかったが、三条市から依頼があった際は、担当から活性を図っている。	順調
	(再掲) 公開講座(チャレン	アクロバット講座、体力づくり運動	地域活性化研究	82	有料講座を視野に、新たな公開講座を検討、実施する。	・R4 チャレンジ大学講座(4講座)を新規に実施した。	順調